

国石候補 (アイウエオ順)

・花崗岩 (花崗岩質岩およびそのペグマタイト)

多くの城の石垣として、また国会議事堂を始めとする建築物や墓石にも石材として利用されている。断面には副成分鉱物を含めた様々な鉱物粒子が見える。また、ペグマタイトを作り、そこからは様々な鉱物の巨晶が産出する。日本の代表的な岩石として、日本のシンボルとなりうる。

・輝安鉱

鉱物コレクションの世界では国際世界的に有名な日本産鉱物の一つであり、市ノ川鉱山産の日本刀を連想させる大型結晶は日本のシンボルとなりうる。

・玄武岩

兵庫県豊岡市の玄武洞の六角の柱状節理を示す玄武岩は、その亀甲模様から明治時代に玄武岩という用語誕生のきっかけとなった。また、松山基範により地磁気の逆転が発見されたという学術的重要性もある。城崎温泉では柱状節理がそのまま石材として利用され、温泉街の風情を高めている。さらに国の天然記念物として将来にわたって現地での見学が保障され、教科書に載っている岩石として知名度も高く、前述の特徴は日本の石のシンボルとなりうる。富士山や三原山などの火山を形成している。

・讃岐岩 (サヌカイト)

旧石器時代より古墳時代まで石槍や石鏃などに全国的に使われ、人間が生きる上で重要な天然のガラスを主体とする火山岩だった。一般の知名度も高く、国内各地に産地があり、今後も現地での観察が可能であることから日本の石のシンボルとなりうる。

・桜石 (堇青石仮像)

堇青石には六角長柱状に発達するものがあり、その断面が六弁の花びら状に見えることから「桜石」と呼ばれる。多くは、その外形を保ち雲母や緑泥石などに変質している。天然記念物に指定されている京都府亀岡市桜天神周辺以外に、国内ではいくつかの産地が知られている。堇青石は珍しい鉱物ではないが、この「桜石」という産状は世界的には比較的珍しく、まさに桜を「国の花」とする我が国の「国の石」としてシンボリックな存在と言えよう。

・黒曜石 (黒曜岩)

ほとんどガラス質の流紋岩質の火山岩で、旧石器時代より古墳時代まで石槍や石鏃などに全国的に使われ、人間が生きる上で重要な火山岩だった。一般の知名度も高く、現在では土壌改良材として、農業や園芸に用いられている。国内各地に産地があり、今後も現地での観察が可能であり、日本の石のシンボルとなりうる。

・自然金

黄金の国ジパングの鉱物であり、小説「大君の通貨」でも描かれたように幕末期に多量の金が海外流失するほど産出量があった。明治期も富国強兵を支え、現在では日本唯一の採掘されている金属鉱床資源。何より美しく (単結晶としても産出)、日本のシンボルとなりうる。

・水晶 (とくに日本式双晶をもつ水晶)

石英の肉眼的な大きさの結晶のことで、きわめて高い知名度を持つ。縄文時代より利用され、装飾品や武器となった。特に二つの板状結晶がハート形に接合した双晶には、「日本式双晶 (Japanese twin)」と世界的に通用する学術的表記に日本の名前が付く。現在でも全国各地で観察が可能であり、日本のシンボルとなりうる。

・トパーズ

明治時代の万博に展示され、エドムント・ナウマンも日本産のトパーズに注目するなど、明治期以降では日本を代表する鉱物として世界的に有名だった。宝石の一種として一般の知名度が高く、現在でも現地での見学が可能な国産の宝石として日本の石のシンボルになりうる。

・ひすい (ひすい輝石およびひすい輝石岩)

日本の地質環境を特徴づける沈み込み帯に特徴的に産する宝石で、現在でも野外で観察できる。縄文時代に国内で加工された大珠は人類初のひすいの加工

であり、以後、奈良時代まで利用された勾玉と共に日本史でも重要な石。その名は一般の人に広く知られており日本のシンボルとなりうる。

・無人岩

明治時代に日本人によって記載された世界的に特殊な火山岩で、学術的な重要性が高い上に、鶯砂は砂壁用としても利用されるなど人間の生活とのかかわりも持つ。現在は世界遺産と国立公園として保護され、将来にわたって現地での見学が保障されているという点で国のシンボルとなりうる。

日本鉱物科学会 国石候補



01 花崗岩



02 輝安鉱



03 玄武岩



04 黒曜石



05 桜石



06 讃岐岩

日本鉱物科学会 国石候補



07 自然金



08 水晶



09 トパーズ



10 ひすい



11 無人岩